

新しい年もどんどんと日が過ぎてゆきます。 光陰矢のごとし・・・です。

前の便り読んでくださいましたか。前便を書いて、するとどうしても、2つのことをお話ししなければならなくなりました。

1つは、倫理研究所に会場を提供したことで、ゆめのsalonがどこかの宗教に属したようにとられるふしのあることについて、それは違う、ということ。

もう1つは、「子には魚を与えるな・・・」の本がわたしの理念といっしょといって、一体それはどんなことか、ということ、です。

その前に 夢 人生目標 などと言葉にすると、・・・わたしそんなものないよ・・・という声が、どこからか聞こえてきます。夢のない人なんて、無い。子供は、昔は、総理大臣！なんてのが多かった。このごろは、歌手・タレント・スポーツ選手・ケーキ屋さん・医者・・・未婚の人はみんな、こんな人に出会ってそして・・・結婚をした人も、将来に対して、こんな家庭を築きたい・・・と夢をもたない人はいないでしょう。

ゆめのsalonに通って下さっている人は、まず、音楽を自分のものにしたい！という夢を持っていない人はいないはずですよ。

わたしの夢は、幼稚園に入ってからは、幼稚園の先生になる！・・・と、いつも言っていたのをいまでもおぼえています。小学校に入ると、今度は学校の先生になる・・・と言っていました。でもいまその頃を思い出すと、わたしの一番なりたかったのは **おかあさん** でした。昔は今のように雑誌はたくさん出ていなくて、おかあさんが毎月見ていたのは、婦人クラブ、主婦の友、それからもう一つあったような気がします。毎日のおかあさんを見、家にあるそんな雑誌を私も見て、毎日家を整え、家族のため、子供のために、食事を用意し、おやつを考え、服を縫い、編み、刺繍をし、そして夜お休みの前には、子供のために、本を読んであげる・・・おかあさんのお仕事は、なんてすてきで楽しいことだろう！！と思っていました。偉くなりたい、なんて思ったことは、子供の頃から今に到るまで、ただの一度もありません。 おかあさんに聞いたことがあります。“・・・毎日ご飯を作って・・・楽しいでしょう・・・” と。でもそのころは戦争が始まって、物資は不自由になり、お洗濯も洗濯機なんてものはなく、家中のものを、手で、何時間もかけて洗っていました。厳冬にもお湯なんか使わない。病人の体を拭くときには、お湯を沸かして、さめないように、あついあついと絞っていたことを思い出します。電気もガスも、使いすぎると、止められたのですよ？！

わたしのおかあさんは、わたしのものごころつくより前から、リュウマチスで体の不自由だったおばあちゃんの世話をずっとして、でも精神的にたよりだったそのおばあちゃんがなくなってしまうと、多勢の家族の世話は、たいへんな苦労だったと思います。

前置きが長くなりましたが、おかあさんになる夢は、神戸の空襲で家の焼けた時から、以来、完全に消えてしまいました。

いまのわたしの夢は、わたしの会得した **楽器の習得法**・いつも楽しく・無駄のない・能率の良い **学び方**・**教え方**を世に示すこと **一** です。

あなたの夢を聞かせてほしいなあ。

ところで本論です。 倫理研究所は宗教法人ではありません。